

[「新潟発 わくわく教育ファーム」の推進～これからの時代を担う子どもたちに「生きる力」を育み、生産者とともに歩む大農業都市の更なる発展へ～(新潟県新潟市)]

課題（状況）



- ・消費者である市民が農業への理解を示さなければ、新潟市の持続的な農業は望めない
- ・高度な技術と農業を組み合わせ、農業を成長産業とする「新潟ニューフードバー構想」を推進

目標



「田園型政令指定都市」という新潟市の特性を生かし、主要産業の農業を学校教育に体系的に位置付け、子どもたちの食や農業に関する価値観を高める。産業従事者が、子どもから尊敬され、自信とプライドをもって仕事に当たるシステムをつくり、市民と農業との距離を縮める

地域資源/产学連携等



- ・大農業都市である土地、農業従事者、生産物等が地域資源
- ・農林水産部(教育ファーム推進、費用支援、指導監督)と教育委員会(学校指導、教員研修)の協働(連携・調整)
- ・現役校長を「アグリ・スタディ指導主事」としてアグリパークに派遣。学校との調整、インストラクターを指導
- ・外部評価機関「アグリ・スタディ・プログラム評価・サポート委員会」を設置。新潟大学特任教授や新潟市小中学校 P T A 連合会が参画
- ・アグリパークは、民間が運営

政策（補助金等）/規制



- ・農業を核としたまちづくりを進める
- ・「新潟市12次産業化推進計画」の策定



具体的な取組内容



- ①農業体験学習プログラム「アグリ・スタディ・プログラム」の作成、改訂
- ②日本初の公立教育ファーム、「新潟市アグリパーク」の整備
- ③子どもたちが主体的・協働的に学ぶアクティビティ・ラーニングを推進
- ④定期的な教師向け研修会を実施

成功要因

- ・組織間の横断的な連携により、相乗効果が生まれたこと
- 教育委員会:学校関係の指導、調整
行政 : アグリパーク(民間)の指導

成果

- ・市内全小学校で「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく農業体験学習を実施。子どもたちが地場産野菜の美味しさに驚いたり、農家の方々の技術のすごさに感動したりする事例が多く報告される。
- ・農業体験に協力した農家等の人数が増加



地域の変化

(以前からの傾向を定量的に裏づけ)

- ・平成27年度「農村・都市交流事業に関する農業者意向調査」(新潟市)において、農業体験等の受け入れを推進することについて、62.7%の農家が賛成と回答。その理由として、91.7%が「農業を理解してもらうことは良いことだ」と回答



次の行動

- ・市外、県外に向けたPRと波及
- ・アグリツーリズムやアグリ修学旅行などを展開
- ・市内大人向けの教育ファーム(農を学んで農家と交流を図る)取組を実施